

ドラム缶等による燃料の貯蔵及び取扱い 仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（例）

1 目的

震災等により被災地においてガソリン等の燃料が不足した場合に災害復興支援車両等への燃料給油を行うことを目的とし、危険物施設以外の場所での一時的な貯蔵やドラム缶から手動ポンプ等を用いて金属製携行缶への詰め替えを行い、仮設の燃料供給拠点として利用するために必要な事項を予め計画します。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

相模原市 区 町 番 号 工場東側空地（コンクリート舗装）

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約 3 6 0 平方メートル（1 5 メートル× 2 4 メートル）

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第 4 類第 1 石油類（ガソリン）3 , 0 0 0 リットル

6 指定数量の倍数

1 5 倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

（ 1 ） 2 0 0 リットルの金属製容器（ドラム缶）にて貯蔵する。

（ 2 ） 保有空地を 6 メートル確保する。

（ 3 ） 貯蔵場所と詰め替え場所に 6 メートルの離隔距離をとる。

（ 4 ） 高温になることを避けるため通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設置する。また、取扱場所において、危険物が長時間炎天下にさらされないようにする。

（ 5 ） 第 5 種消火設備 10 型 ABC 粉末消火器 3 本を設置する。

（ 6 ） 標識及び掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。

「危険物仮貯蔵所・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

（ 1 ） ドラム缶本体、給油に使用するドラムポンプ等のアースを確保する。

（ 2 ） 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状所有者が行う。

（ 3 ） 危険物を取扱う者は、静電安全靴を着用する。

9 管理状況

（ 1 ） 保有空地の周囲にバリケード等を設け、空地を確保する。

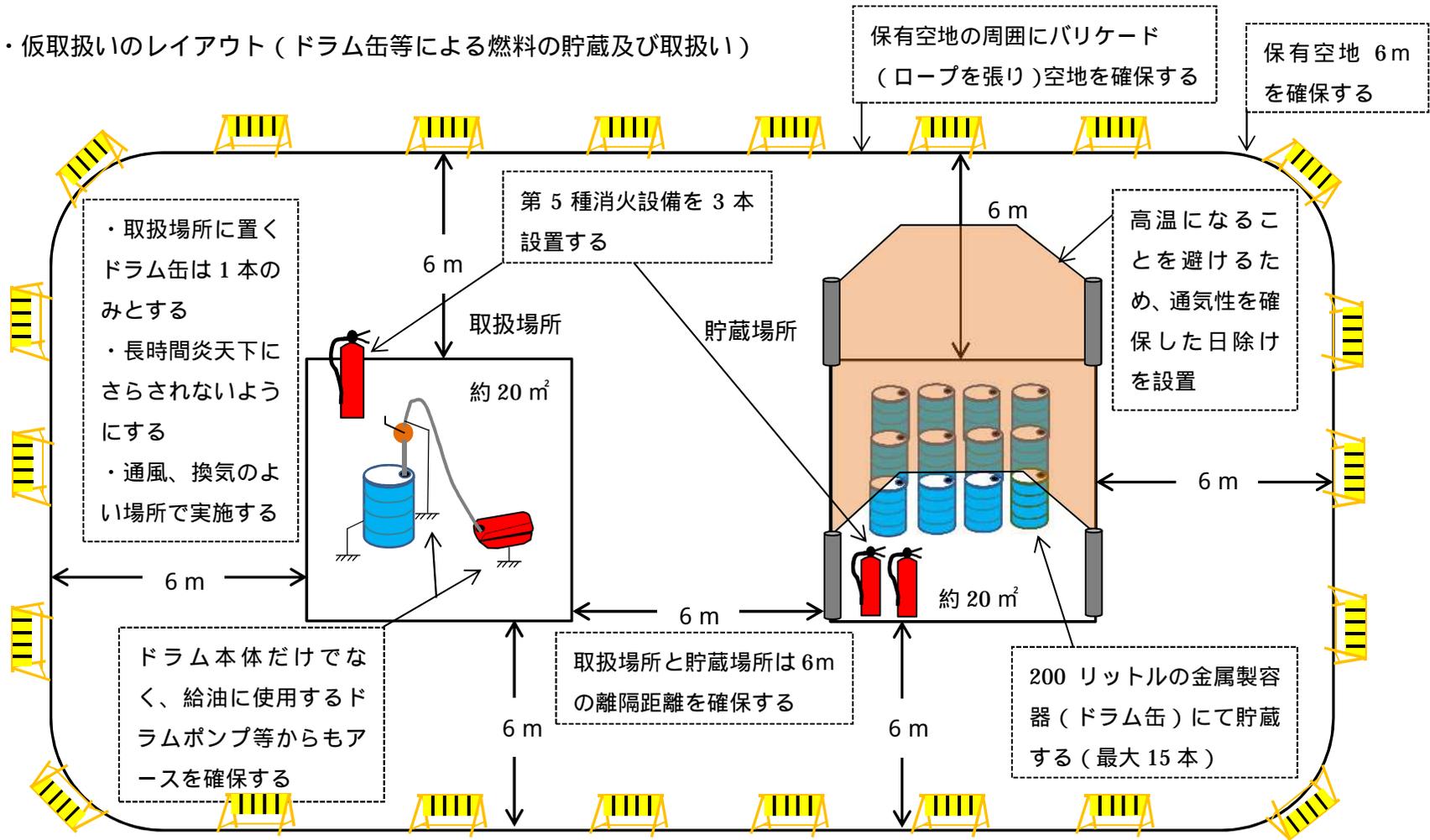
（ 2 ） 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。

（ 3 ） 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要事項

金属製携行缶による給油は、この場所以外で行わない。

仮貯蔵・仮取扱いのレイアウト（ドラム缶等による燃料の貯蔵及び取扱い）



標識・掲示板を設置し関係者に注意喚起を行う



危険物仮貯蔵所・仮取扱所	
品名	第4類第1石油類（ガソリン）
数量	3,000リットル
倍数	1.5倍
管理者	

- ・大きさ、縦 30cm 以上、幅 60cm 以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、地を赤色、文字を白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、地を白色、文字を黒色